



## 開催概要

- 日時 | 2016年2月27日(土) 14:00-17:00 (受付 13:30)
- 対象 | 本事業の受講生に限らずどなたでもご参加いただけます。
- 料金 | 無料 (定員 50名)
- 会場 | 大阪市立大学 高原記念館 学友ホール (大阪市住吉区杉本 3-3-138)
- 申し込み方法 | 氏名、年齢、職業、連絡先 (電話番号 / PCメールアドレス) を明記のうえ、下記メールアドレスまで2月22日までに申し込みください。  
※メールで申し込みいただいてから5日以内に返信がない場合は、迷惑メールを確認いただくか、再度メールかお電話にてお問い合わせください。
- 問い合わせ先 | 大阪市立大学文学部内 AMP事業事務局  
Eメール : [artsmanagement@lit.osaka-cu.ac.jp](mailto:artsmanagement@lit.osaka-cu.ac.jp)  
ウェブサイト : <http://artsmanage.jp>  
電話 : 06-6605-2026 [月・水・金 10:00~16:00]



大阪市立大学高原記念館までのアクセス  
JR阪和線「杉本町」駅より徒歩5分  
地下鉄御堂筋線「あびこ」駅4番出口より徒歩20分

- 主催 大阪市立大学
- 共催 NPO法人こえとことばとこころの部屋  
NPO法人cobon タチョナプロジェクト
- 協力 NPO法人アーツプロジェクト  
ブレイカープロジェクト  
大阪アーツカウンシル  
NPO法人アートNPOリンク
- 後援 大阪府  
大阪市  
在大阪インドネシア共和国総領事館
- 助成 平成27年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」



大阪市立大学  
社会包摂型アートマネジメント  
プロフェッショナル育成事業  
2

# アートの活用形?

Forum  
Arts Management for Social Inclusion

2016.2.27 [土] 14:00-17:00  
大阪市立大学 高原記念館



# アートの活用形?

## Forum

Arts Management for Social Inclusion

本フォーラムでは、社会包摂型アートマネジメント・プロフェッショナル育成事業「アートの活用形?」において、2015年度のプロジェクト実践に参加した受講生と共に振り返り、アートやアートマネジメントの社会的役割や意義についてディスカッションします。

「アートの活用形?」は、被災地や貧困地域、病院や障害者施設といった、問題を抱えたり社会から遠ざけられたりしている地域や施設において、アートを通して解決の道筋や回復の手立てを見出し、それを効果的に動かせるプロフェッショナルなアート・マネジャーの育成をめざすものです。

本年度は、4つの現場を舞台に、プロの講師の指導をうけながら、延べ20名ほどの方々が実践の経験を積みました。小学校など教育の現場においてアートと子どもをつなぐ「タチョナプロジェクト」、貧困による様々な課題を抱える釜ヶ崎において表現と学びの場をつくる「こえとことばとこころの部屋(ココルーム)」、高齢化がすすむ都市過疎地域において草の根的アートの実践に取り組む「ブレイカープロジェクト」、日本でも先駆的にアートを取り入れたプログラムを手がける「大阪市立大学医学部附属病院」が、その現場です。

本フォーラムの第一部では各プロジェクトの講師と受講生による活動の紹介と振り返り、第二部では講座やゼミの受講生、また当日参加されたみなさんも交えてグループディスカッションを行います。

## Program

第一部 | 14:00-15:20

プロジェクト実践の振り返り

### A 医療安全のためのアート&デザインプロジェクト

報告者 |

森合音 四国こどもとおとなの医療センター ホスピタルアートディレクター / NPO法人アーツプロジェクト 代表

+ 受講生

### B こども熱帯音楽祭 #04

報告者 |

小島剛 NPO法人cobon タチョナプロジェクト プログラムディレクター

+ 受講生

### C 地域に根ざした創造活動拠点の実験 2

報告者 |

松尾真由子 ブレイカープロジェクト 事務局長

+ 受講生

### D 釜ヶ崎オ!ペラ 2

報告者 |

上田假奈代 NPO法人こえとことばとこころの部屋 代表

+ 受講生

ゲスト・コメンテーター |

山下里加 アートジャーナリスト / 大阪アーツカウンシル / 京都造形芸術大学アートプロデュース学科 准教授

樋口貞幸 NPO法人アートNPOリンク 事務局長 / 大阪市立大学都市研究プラザ 特別研究員

第二部 | 15:40-17:00

グループディスカッション

講師、受講生、ゲスト・コメンテーターのほか、当日参加された会場のみなさんも交えて討論します。

## プロジェクト実践について

### A 医療安全のためのアート&デザインプロジェクト

連携先 | 大阪市立大学医学部附属病院

実施期間 | 2015年9月～2016年2月

講師 | 森合音

アーティスト | 井上由季子(グラフィック芸家)、井上政憲(プロダクトデザイナー)

——「質の高い安全な医療を提供する」ための環境づくりをめざし、職員へのヒアリングなどを通して課題やニーズを洗い出すところからスタート。現場の声に耳を澄まし、対話から生まれる新しい病院のかたちを、アーティスト、職員、そして受講生と共に探っていく。今回は医療安全管理部が取り組む、患者の急変時対応のプロジェクトに関する院内広報戦略に関わった。

### B こども熱帯音楽祭 #04

連携先 | NPO法人cobon タチョナプロジェクト

実施期間 | 2015年7月～9月

講師 | 小島剛

アーティスト | 梅田哲也(美術家/音楽家)、PIKA☆(音楽家)

——子どもたちがアートに触れる様々なプログラムを提供するタチョナと連携して行った「こども熱帯音楽祭」が目的とするのは、子どもたちの個性と発想力を伸ばし、様々な課題を創造的に解決していく力を育てていくこと。関西を代表するアーティスト2名がそれぞれ小学校に出向き、子どもたちと音楽を創作するワークショップを実施し、その創意工夫の成果を舞台上で発表した。

### C 地域に根ざした創造活動拠点の実験 2

連携先 | ブレイカープロジェクト

実施時期 | 2015年8月～2016年2月

講師 | 松尾真由子

アーティスト | きむらとしろうじんじん(美術家)、アーティスト | プブ・ド・ラ・マドレーヌ(美術家)、坪田直(空間デザイナー)

——日常のなかに創造の現場を生み出していくことをめざし、草の根的なアートの取り組みを継続して展開するブレイカープロジェクト。廃校跡の小学校にて、アーティストと共に近隣の子どもから高齢者まで、また地域外の人も入り、学校に残された陶芸の窯や学習園跡、廃材などを活用したものづくりの場を創出。実験的活動を通して新たなコミュニティの可能性や場のあり方を探求した。

### D 釜ヶ崎オ!ペラ 2

連携先 | NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)

実施時期 | 2015年10月～2016年2月

講師 | 上田假奈代

アーティスト | 野村誠(音楽家)、スニョト(音楽家/インドネシア)、ステイヤストウティ(舞踊家/インドネシア)

——寄せ場(日雇い労働者の街)・釜ヶ崎も変化し、高齢者が多く暮らすまちで活動するココルーム。様々な人々との出会いをつむぎ、表現と学び合いの場をつくっている。本プログラムでは、釜ヶ崎芸術大学による様々なプログラムの発表に合わせて、インドネシアから招聘した2名のアーティストを交え、ガムランを軸とした舞台作品を創作、発表した。

